

時代に関係なく生き残る歯科医院とは何か？ 歯科衛生士も必読の一冊！



マンガでわかる成功へのプロセス30
歯科医院に本当に必要なこと

高井康博・佐々生康宏 著

B5判/152頁 定価：本体3,200円+税
 医歯薬出版（2015年12月）

水上歯科クリニック

評・下田裕子（歯科衛生士）



まず、本書の大きな特徴として漫画形式であること、そして重要なポイントが強調して書かれていることから、とても読みやすい一冊だと感じました。歯科専門書を読むとなると、やや身構えてしまう方も多いと思いますが、本書は漫画で書かれているので歯科衛生士でも気軽に手にとることができると思います。難しい専門用語をあまり使用せず、そして理解しやすい内容に仕上げられているのは、歯科衛生士をはじめとするコデンタルスタッフや学生の方にも読んでもらいたいという、著書の先生方の気持ちの現れだと思います。そして私自身もこの本を読んで、これから歯科に携わる方、もうすでにかかっている方、年齢や臨床歴は関係なくすべての歯科衛生士に一読してもらいたいと思いました。

本書の内容は、歯科医療の「いま」を切実に表しています。主人公の歯科医師が、開業からいろいろと苦労しながらコデンタルスタッフとともに成長していくというストーリーなのですが、登場する歯科医師もスタッフたちもスムーズには成長できません。現実に歯科医院で働く私たちもまたしかり、たくさんの山を越え、さまざまな問題を解決していくことで、はじめて景色が見通せるようになるものです。歯科医院のスタッフ全員がチームとして苦難を越えることが必要だと、あらためて感じました。

多くの歯科衛生士は、患者さんのことはよく理解していると思います。しかし、院長のことを深く理解している歯科衛生士は少ないかもしれません。院長は歯科医師であり、かつ経営者でもあるというとても大変な立場であることを、スタッフが理解し、手助けすることも必要だと思います。そして、コデンタルスタッフが院長と同じ目標に向かって歩むことが大切です。

院長に「やる気」があっても、スタッフに「やる気」がなければ、モチベーションの違いからよい人間関係は構築されません。ギクシャクした関係からは「よい治療」は生まれませんし、患者さんも離れていってしまいます。そのようなことにならないためには、歯科医師とコデンタルスタッフがお互いの立場を理解して尊重し合い、日常的に密な情報交換を行うことが必要だと考えます。つまり、歯科医療はチーム医療であることが必須なのです。

歯科衛生士にもぜひ本書を読んで院長の立場を理解し、よい関係を築いていただければ幸いです。